

旭川西高校の日下部コーチから3月14・15日に行われた仙台明成高校との強化招待試合の報告が送られてきましたので、掲載します。

U-18強化事業(高校男子)強化招待試合に参加して

北海道旭川西高等学校コーチ 日下部二郎

去る3月14・15日に札幌創成高校において、平成20年度U-18強化事業(高校男子)強化招待試合・クリニックに参加させていただき、誠にありがとうございました。チームの強化という観点のみならず、子どもが大人に成長していくための貴重な体験を選手たちに与えていただきました。

本強化事業を企画・運営してくださった北海道バスケットボール協会の皆様、とりわけ強化委員長の須戸さんをはじめ強化委員会の皆様、会場校の中西先生、三上先生、練習会場その他全てにお世話いただいた佐藤恵文先生、吉田先生、審判の皆様、オフィシャルを務めてくれた選手たちと顧問の先生、ゲームとクリニックでお世話になった佐藤久夫先生と明成高校の選手たち、共に受講した指導者の方々、応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

この原稿をまとめるにあたり、第一に参加チームを代表して心からお礼を述べさせていただきます。

さて、強化事業の日程は、14日午前がクリニック、午後から明成対旭西、明成対恵南。15日午前明成対旭西、明成対恵南という内容で、明成高校にとっては、中1時間で2ゲームというハードなものでした。

14日の佐藤久夫先生のクリニックは短時間ということもあり、アジリティドリルと過去の著名な戦術の紹介が中心でした。アジリティドリルはミニバスでの導入を強調されていましたが、本校でも同様のドリルを用いており、プレー中にドリルと似たような反応の速さを求められる場面が多々あって効果を上げています。

久夫先生のクリニックに参加して感じるのは、正しい心技体への飽くなきこだわり、周りの人をその気にさせてしまう熱い情熱です。「メモなんかしないで、自分の心に火をつけて帰ってください」とおっしゃっていましたが、クリニックのみならず、熱いゲーム指導そのものが素晴らしい講義でした。受講した皆様はチームに帰って自らの心だけでなく、選手の心にも火をつける指導に当たっていることと思います。

次に明成高校とのゲームですが、これには苦慮しました。第一に明成得意のパスティングゲームについていけるのか、第二に身長 mismatches の問題。現在行っている練習の全てが問われる強敵です。いずれにせよ勝利へのこだわり無くしてギリギリのプレーは生まれないので、乏しい現有戦力で如何に勝つか最大のポイントでした。上記の 2 点を探るためのキーププレーと考えたのが、相手センターへの激しいトラップでした。

このプレーにより明成高校新チームのパス展開技術を押し量りつつ mismatches 対策としました。この時、明成に逆サイドでしっかりプレーを作られてディフェンスが振り回され、そこで出来た死角空間を衝かれようものなら現時点ではアウトです。しかし、久夫先生はおそらく現時点では流れるようなパスティングゲームよりも、一人ひとりのプレーの力強さ、1対1をすべき場面の指導が主であったと思われます。立ち上がりのセンターの1対1、高い得点力を持つ #5 の1対1を見て、これは試合になると感じました。

自分たちよりも能力の高い相手とどう戦うか。今回の相手は明成高校ですが、全道大会では地方のチームが札幌勢との試合で常に向き合う問題です。かつては、相手の高い能力を如何に封じるかばかり考えていました。しかし、それでは競うことはあっても勝ち切れない。こちらにも、相手が対応に腐心する武器が無くては勝てない。いくつかポイントを絞って練習してきましたが、一番こだわったのは明成高校同様に1対1すべき場面の切れの良さでした。この「すべき場面」を上手に作れず、「せざるを得ない場面」になってしまったことも再三ありました。

試合は 2 日間共に前半は競りながら、後半の勝負どころでしっかり離されて敗れました。これはもちろん技術的な問題もありますが、久夫先生の普段の妥協の無い練習で培われた集中力・精神力に起因するところが大きいと考えます。まさしく指導者育成委員会委員長の幸丸先生がおっしゃるとおり、「心技体」の「心」の指導、選手をとことん追い込む指導が我々には足りないと思われます。

仕合後に久夫先生からいただいたアドバイスは大きく次の 3 点です。①エラーが多すぎる。だから失速してしまう。②センターのスキルが無さ過ぎる。③真面目さは伝わるが「遊び」が無い。ただし、「遊び」は真面目な練習の積み重ねで身につく。

2 日目に恵庭南高校が明成高校に勝利したことは特筆すべきことで、ナイスゲームでした。前日に森河先生も久夫先生からアドバイスを受け(内容は教えられません)、しっかり修正しての試合展開は見事でした。北海道勢が全国で戦う上で、貴重な一勝であると思います。

いつも感じることですが、1 度の練習試合や 1 回のクリニックでチームが変わることはありません。それらは動機付けに過ぎず、毎日繰り返される妥協の無い練習の積み重ねによってのみチームは少しずつ成長していくのだと思います。かつて久夫先生がおっしゃっていました。「8 時間、練習で取り組んだことが試合でたった 1 回出たよ。」佐藤久夫ほどの名コーチでも 1 プレーを作るのに 8 時間。

なんと勇気を与えてくれる言葉でしょう。なかなか伸びない、いい習慣が身に付かない、教えるのに時間がかかりすぎる、いいじゃないですか。もっともっと時間をかけていいバスケットボールを積み上げていきましょう。

甚だ雑駁で的を得ぬ文章で申し訳ありません。今回の素晴らしい事業に参加させていただいたことへのささやかな恩返しのため書きました。この事業が高校女子の

部も含めて、今後発展していき、日本の高校界を代表する(能代カップのような)強化事業になることを切に願っております。ありがとうございました。

追記。帰路の途中で北海道ジュニアオールスターチームと練習試合を行いました。相手が高校生だろうと物怖じせず、しっかりと相手を見据えて戦う姿勢、言い訳や妥協が全く無い雰囲気、中学生とは思えぬ激しさ、チームの一体感、正しい技術の運用、どれを取っても素晴らしく、さすが選び抜かれた選手たちと経験豊富なスタッフだと感服しました。三連覇がかかる今年はさぞマークもきついと思いますが、大暴れしてください。このジュニアの頑張りと成果をさらに伸ばしていくためには高校サイドの責任は重大ですね。

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会